

○クリスマスコンサートが開催されます♪

そろそろ暖房が恋しい季節になりました。「寒くて外に出かけるのが嫌！」という方も高知大学医学部管弦楽団によるクリスマスコンサートと一緒に心温まる時間を過ごしませんか。

【日時】 平成23年12月10日（土） 14:00～15:00

【場所】 安芸病院 1階外来ロビー



どなたでも参加できます。
みなさんのご来場お待ちしております。

○聖歌隊がやってくる！

平成23年12月21日（水）に、職員有志による聖歌隊が各病棟を訪問します。入院患者さんにも一足早いクリスマスを楽しんでいただけたら幸いです。



* 昨年の聖歌隊メンバー



お悩み相談室

お悩み相談室の第6回目は、前回に引き続き緩和ケアに関する疑問について、外科 直木 一朗 医長に教えていただきます。

Q 麻薬と聞くと抵抗があるのですが。

A 中毒と同じように色々な誤解があるようです。①使い続けると効かなくなる？—いわゆる覚せい剤と違い、適切な使用が行われていれば効果はなくなりません。ただし病状の進行により増量が必要な場合があります。②寿命が短くなる？—副作用には、呼吸回数の減少や意識の低下などもありますが、適切な使用と観察がされていれば心配ありません。③麻薬が使われるともう長くない？—医療用麻薬はがん治療の早期からでも使われる場合も多く、決して末期だから使用する薬ではありません。医療用麻薬は、がんの痛みから生じる精神的・肉体的制限を少しでも開放し、よりよい生活を送っていただくための道具なのです。

Q どのような人たちが『緩和ケア』をしているのですか？

A 緩和ケアチームのメンバーが中心となって行います。①医師：主治医や緩和ケア担当医が協力し、色々な症状のコントロールを目指します。②看護師：日常のケアをする担当看護師のほか、専門知識や技術を持った緩和ケア認定看護師がいます。③薬剤師：痛みやその他の症状をコントロールするための薬について、情報提供や説明を行います。④ソーシャルワーカー（医療社会福祉士）：患者さんとご家族の生活全般（経済面、福祉制度、在宅医療、訪問看護など）をサポートします。⑤栄養士：食事が進まない時の患者さん個別の食事の工夫や、栄養状態の評価、アドバイスをします。⑥理学療法士・作業療法士：がんの治療や進行により衰えた体の機能を最大限に活用して生活するためのリハビリをします。

当院では、救急医療対策委員会主催のもと、いかなる状況の下でもすみやかな一次救命処置が行えるように、全職員必修としてBLS（Basic Life Support：一次救命処置）研修を実施しています。

まずは、手順やBLSを行ううえで大切なことなどの説明を受け、実際に看護師によるデモンストレーションを見て流れをつかみます。

そして実践です。反応の確認→人・物を集める→呼吸の確認→胸骨圧迫（心臓マッサージ）→AED（自動体外式除細動器）の使用…

BLSの必要性についてや質の高い胸骨圧迫（心臓マッサージ）の習得、AED（自動体外式除細動器）の安全な使用方法等を課題に、職員間で確認をし合いながら、研修を行うことができました。



AED（自動体外式除細動器）

○安芸ICLSコース（成人の心停止に特化したコース）

平成23年11月19日（土）に安芸ICLS（Immediate Cardiac Life Support）コースが行われました。このコースは、「突然の心停止（特に心室細動）に対して、最初の10分間の適切なチーム蘇生」を学習目標としています。



今回は、スキルセッションとシナリオセッションを行いました。午前中に、BLS・気道管理・モニターのスキルを学び、午後からはチームとして蘇生を行えるようになるために、午前中に学んだそれぞれのスキルの分担をローテーションしながら行い、一人ひとりがより深く習得していきました。



安芸病院の炊き出し班は、前日からコース参加者全員分の昼食の仕込みをして、当日も朝の9時から準備を開始していました。

参加されたみなさん、お疲れさまでした。

